

出羽國風土紀卷之八

茶地
卷之八



出羽國風土畧記卷之八



酒王権現

書院附志曾白稿

本居氏

同城 吉尾洋

難川館

汝城 附 城深

八津崎神社

八幡宮 和名神社

芥田館

福高大明神

白山権現

内城館

石沃館

瀧訪大明神

瀧沃館

子吉館

深保館

八幡宮

同城

城深寺

沙科

瀧訪社

真而権現



山王社

矢野氏

金峯山

八幡文

平沃彼

院内彼

平沃彼

平沃彼

白山大明神
白山大明神
白山大明神

白山大明神

月山神社

河内郡

同彼 小坂川
冠峯山
星明神
地藏堂
同彼 中利
七子山
八幡文
冠峯山
白山大明神
白山大明神

下村彼

月山大明神

八幡山

八幡文

尾白領

保良波山

日吉社

羽根領

宝光山大明神

宝光大明神

法以山寺

冠尾山

女尾冠社

出羽國風土畧記卷之八

一 出羽郡

延喜式卷二之七 出羽正上管十一郡の内

出羽郡としふが一但二十八卷出羽正傳子の

系下に出羽六正とありけりハ白里の名

して郡名ふあはれ又正史ありし出羽郡

といふ事見くは和漢三才記今平出羽ハ

後子郡教小加一傳りとあれは時代見へす

予正史を見えて考へに上古ハ秋田郡の了ち

あり一東北正上郡を隣とし矢野郡を

出羽郡正上管十一郡の内

出羽郡正上管十一郡の内

出羽郡正上管十一郡の内

出羽郡正上管十一郡の内

出羽郡正上管十一郡の内

尚郡のこころと云。 中利家の事 中利家没 末子没也

尚後應永元年九月中旬 穂倉版より 美海公

十二ヶ所小茂士を置て郡中を警衛す是

を十二ヶ所と稱す 十二ヶ所といふは古尾津

能川子吉仁加保田城 浮保石 沢尻 矢野

玉余下村 岩谷是なりとあり又一記に玉

余を除羽根川を加て十二ヶ所と云ふ説あり

又浮保を玉余版と云ふもの有り不可

を忘る是といふ古人今所持する古記を

見て記之巨細ハ下に記を按するに浮保

を玉余版といふ説ハ誤なり 一 古上出羽

守後時代日珍傳中 守後祖馬友人を下し

て尚郡を檢地 是の年が 水焼面 是

万石子八百又十八石九斗又末五合とあり一

記に右云ふに月日 万石 是 長八年 癸卯八月

あり元和八至戌年と二十年 精思 是

同 是 上家 是 初 是 付 是 万石 是 末 是 五合 是 あり 一 説 是

同 是 一 是 万石 是 末 是 五合 是 あり 一 説 是

同 是 三 是 子 是 石 是 末 是 五合 是 あり 一 説 是

子八百五十八石九斗又末五合より 精思

豊前(一)此郡出羽守成此歳入とあり元和
八年宮上家没落の付以てより此檢使と
して石川八左衛門成伊丹新之助成皆根源
藏成素屋（石川八左衛門）成を成勅た素屋成坪井
令吉成成水野河内成下向成後成中成上成
成成(一)成下元和八年より翌九年迄成
(一)此位成同成年成爲成石百上成石二百石
成郷成成成成(一)成下成成の成成に成成付
（建徳七年成成成成成成成成成成）
成二成石成成成組成守成(一)成下成成(一)成
成成付成回一成石成仁成保成成成成(一)成下

塩城(一)此城を築きしなり （成成成成成成成成成成） 同七
石成仁成保成成成(一)成下同成石成成
上成成成成成成成成成(一)成下同成石成成
百成十八成石成成成成成上成仁成保成成
成成(一)成成七成石成成成成成成成十八
成九成石成成成成成(一)成永成成成成仁成保
成成成成成成成成(一)成七成石成成成同八
成年成成成成成子成成成人成成去一成一成
成上同十二成年成成成成成成去成子成
成上同十成日成年成仁成保成成成 （成成成成成成）

正徳出三子石正下平沃一畝土を至三子石
之月子石支別日記成一畝地今の仁加保
山コケ背後同之厩成子到。同十又寛永年廿六
上野成成成地正下上佐竹菊重一畝成け
上野成成成仙小横子一畝易成作竹同十七
辰年一畝石生駒成守成一正下同年八
月十九日埴城一正下同十月廿二日矣成一
入駒成言らるる厩成成地之月十六日村
生駒成一畝成成地と一仁加保の月言
同子らるる三十九石一斗七升六合液。村教

一畝十七ヶ村跡言ふ八百五十八石九斗五升五合
赤新成と成る。当时大山一属にけふ酒井家
成成地と成る一畝有り 言同成成 先是成成
之成一畝石言同成成殿一畝成の半七有
年教い成る考人成寛永九年十年の頃
も也

一畝料

仁加保の内山砂川村大畑村大砂川村
川袋村洗谷成井成村成成村成成村成成村
大畑成村是なり。当时成成二子百石十九石

八斗二米前に大山に属しといふは是なり
後年修く古代ハ仁加保玄庵及伝教の別之
其後正百上酒井家ハ此後天和元年一箇
月在傳ハ射敵市年去沙嫡小又拜殿十
法幼少ハ付 公義より天和二年戌八月
保科之親友二石子何初ハ之丞友此下唐内
此領而巡見ハ作付ハ附ハ親友家ハ士隣田
宅志忠ハ巡見記を編集ハ其申ハ云八月
十日大日寺に法泊り古小ありハ此後之禪宗之陣古
冥より又十丁まで帆湯本といふあり増

此が体石といふ有境論あり此料ハ体石
境目といふ境域ハ此ハ帆湯本境目の
よハ中ハありハ付本砂中ハありハ此年ハは
隠れ凶年ハハ取リハハなハ古俗ハけハち
本ハといふハありハ日記ハ中利沙料ハ子ハハる
石ハありハ後年ハ修ク田畑ハ罷ハあハてハるハ増
よハもハあハへハ。

一 法務大明神

関村ハありハ多神ハ健ハ布ハ名ハ方ハ令ハ之ハ七月ハ廿ハ七日
多礼ハありハ社ハ既ハ子ハ砂ハをハ並ハ其ハ申ハにハ幣ハをハさハて

尚秋風の強弱をりふ社家一人有り塩城小
居位を次田享保年中始て獅子歌を造立し
正月申仁加保を巡行を尚所を有神無神
の圖の形なりといひとも扱がし事才六
の巻に記し侍れを略之末社は尾五利居社
といふ有り下居社也

一 義王権現

小浪村より有り多神少彦名命三月十八日
多礼田樂亦有り流流あり院を龍山寺
といふ五月多海系信の者信なり也西納

徑更帳より多海山龍山寺と書明曆年中
多海山系信より後よりて歎息より与社設所
多神多寺家所より少出しし龍文の裏に
矢崎小浪の沢云々所と有り義王権現
獅子歌あり古來より正月申仁加保中巡行
社家の表より流あり飽海郡本田の流の次を
とぐし流の多上に山橋一條を渡り神出に
出羽なり多名の白橋といひる是也

ふあり振神の誓ひ此中より
りけてそ海なるその白橋

一直而控視

大砂川村より吹浦までの郭境之正月
六日吹浦村の社家当社（獅子頭を渡せ置
七日神樂渡り候ハ舞々々ハ舞々々

一本庄記

塩越邑大塩越村赤石村金浦村志川村
森村芥田村三本村中平庄記赤川村大
竹村以上仁加保の内三本村志川村山ノ俣村
菊沃村古谷村志本村志本村中ノ沃村
以上小庄記川口村福田村志本庄記村掃り

志本村志本郷村以上庄記埋田村志本庄記村後

磯村新山村沼畑村長田村西尾村

了見崎村長橋村志畑村葛法村志下村

玉池村以上志本庄記中沢村志本村沼保村

四方村金山沃村沼田村大西目村出戸村

支前寺村琴浦村志本庄記沃村以上西目庄記志本庄記

志本庄記以上西目庄記志本庄記志本庄記志本庄記

志本庄記志本庄記志本庄記志本庄記

志本庄記志本庄記志本庄記志本庄記

志本庄記志本庄記志本庄記志本庄記

大岩村 又十田村 山菅野村 小坂村 智光河村
 七倉村 山田村 中上条村 新上条村 吉河村
 幸新岩村 新屋敷村 神田村 赤山村 栗山村
 赤子村 三ツ屋村 明保村 中宗村 李国村 合
 山村 馬芳村 赤田村 三畑村 赤河村 河村 河村
 河村 福田村 赤村 中畑村 垣口村 国代村
 二口村 下向村 屋敷村 倉屋村 赤神村 寺
 又村 平石村 蒲田村 立井地村 山崎村 馬
 河村 三河村 以上新川の 赤村 三二石 本庄 依
 あり

一本庄城

往古の城よりハ姓名亦詳ならずハ当城より六
 郷ニ庫野原 略ハ仙北六郷の館ニ之を和八年 以テハ
 志尾津を以テ領を以テ一と云々 太平記評
 判十五ノ中ニ志尾津と云ハ当郷の事ニ
 書載スル中ニ志尾津と云ハ当郷の事ニ
 又羽原記ハ志尾津光勢橋の条下に志尾
 津孫穴并二百人とあり 又曰ク 志尾津
 の事記す

陰云一層のより一層の松

といふ句あり詞中に志尾津山城は形てと
あり又言上後軍師一雲の方より宗佐へ
きし傳るは人裁前一雲岩の人よそ酒田は後一雲方の
館行き 誰及の接南と一人なり
書状の因は赤孫後孫為元後此宅し臣此宅
依より丸の然此宅と云志孫ハ志尾津孫
次郎の畧ちるべし強敵の事
赤上強き 此宅といふ言上
一系仕の事也屋一は時中利十二黨秋因
是と家光の膝下に居ん又一記は楯尾を
前とあり豊州あまの楯尾後には赤尾津
又本城丸孫を一事前に記きり又小外川

濃尾と云一人宗佐へ中き一は此状の
因は赤孫後と一人中佐を記しれり
に小外川氏陽海山一は此宅を新しれ種吟
百韻を綴り宗佐へ息割を記れ一事あり
程く中に今度豊州山城一此宅よ付を序
よは二書記すべしとあり赤上小豊州よし連
秀也と云る言上は赤上も是此宅なり者し
とあり山城よその言上は紙面を記してそ
後中利へ有りての言上り家光相預なり
言上の系下に本城丸を記すに方あり

有ハハ人トモ同桑下ニ小泉後流ル車地
をある岡子又百石と有り小女川之書面を
以て考ルハ豊洲も宗依のつぎと見へり
又羽原記ニ豫州の名字を大泉といひ又
小泉と書くも雨も有り小女川の空面を授
とせバ小泉と書事ハ謬なるも一ハ小女川の
事未だ記を其長十九年飽海郡飛ヶ崎村
之志村氏没後志尾津右近といふ人を其上
取より地代に至り事有り才又し書し記
を右をといひ一人も同泉の人と見へり

去人の記は孫ハ
といふ人も有り或人云志尾津といふハもと中尾
の地名なりあるは地を志尾津取とも稱
せしといふ又一説はけ取娘ハ飛田能言
地に志尾津一後中尾子娘とれ一たといふ
け説是なるもや飛田能下蛇田村も志尾
津八幡といふあり又同能の内無管寺と志
尾津成菩提所と云傳へり又曰能松ヶ崎村
飛井山八幡宮として代々の能志宗家をもれ
一社あり又中尾子飛井山八幡寺といふ
寺あり

志尾津宗

あり境内ハ八幡宮を築山岡の

結寺といふ按ずるに志尾津反或人志尾津は始
は龜田の言はれし後し後し本庄に居るを後
されしあり彼地の結寺を尚城一勃徒一
て龜井山八幡寺と稱しりりりや又志尾
津反本庄龜田より二城を要害と一尚市を
本城とせしれりりを後小城を庄の字に書
改りりりや一於て尋ぬ一又案ずるに
津といふ言をいふ龜田の言はれし本
庄の言はれし是を以て考れば古人志尾
津は本庄の地名なりといふ説及理お付

一
つり尚城は志尾津反本城よりして龜田の
城より同姓をいれし事を古人始は反龜
田より後し後し本庄より移りありと云はれり
もや續左平記二十九之卷に言上御理方吏
將軍御政公へ加勢の爲尚市は軍勢を催
されしりりりは利仙福之河内は益田本堂
仁加保寺城大梵寺河内とあり益田本堂
は龜田本庄の言はれしや益田本堂といふ人
の言はれしりりり

一 尚城の徳もなりちる那も徳の工も後まれば
略す

一 鉾川館

十二卷の内なり一記は鉾川小平方とあり
没落の年記詳なりむと申元徳の月も鉾川
にあり館記あり

一 塩城

仁加保の大邑よりして仁加保と厚皮長佐
まされし所なり今ハ本庄より寺新人を
至南西の東北は浮あり誌書に載るキヤカ塩沼と

いふハ是なり大物志神社縁記に云到山
腰而山海山縁なり徳西川有泉浮八十八浮九十
九表を為縁系名平丹喜ふて是を写照云々
福子系及祠も絶より芭蕉翁の奥此細江
よ松崎の知れがごとく縁沼ハうらめもり
あといくとしり古ハ者系縁件飛多そけり
よ流飛を

た迂る縁ありし何れもいふことなり

海士のと海やを縁者よりして

と縁重れりるとそ又古者我入る能因法師の事なり

新編の以系色よめてと響信れ一記有入
戸と号れ

世の中ハウ〜でも経たり城下の

海士ののと高屋を承者よして

といふハけ入屋の歌なり延喜式二十八出羽
小笠原此城下に城方坐利十二丈と五古
ハ坐利と城方おろよして今の松よあ
らん古人城深といふハ城といふ貝ありなよ
若射〜と云信子殿を見貝と云ふ今象と書ハ万葉書
なり延喜式よ方と云〜も又万葉書なり

延喜式よ方と云〜も又万葉書之城深の
西ハ海よ〜して大塩城といふ村あり地勢余
可より早ナ梅まらに古大沙の深ハ折城と
よ事有材名と〜たりや今城塩と塩の字
を書ハ誤りなり〜稀小沙城と雖も奈松
よ古人といふ

一沙城城

城深の南橋の表よあり今ハ畑とめて所の
方に石垣僅よ跡きり元和九年仁加保屋一
万石をおんき〜時築れ〜城跡之古人

云古代仁加保佐城ハ境内にあり領地百上
られ浪高も後年子孫を五百出高領の
内一万石を下元和九年の庶士を下して古
の領を見せあふ山城ぢれハ是果弟木あひ
薙り容易に修補せしさふあふ依之城方
の領子新ハ居館を築く後中妻ハ男子一人
妾後ハ男子二人あり嫡子に七子石を下妻
後二人ハ三子石を地ハ作付後年此籠中ハ
五百出平次今の領是是なり一記ハ内務内記と云
ハ妾後の二人也
本家七子石何る子細もや又石没収産人取
代なる

へ一記ハ寛永八年未
死去より言とあり後 公義役人をりされ館
此五上家成相もあハ支別ハ下中ハ後
手取才ハ難敷ハ作付られ九箇前ハ止り
々も人もありハと云今汝越ハ城の流と稱
して所寄新の手に属ハ是煙二三人あり仁
賀保佐庶士の果なりハといふ人あり予書傳
を志ハとといハ九七人の語を記して後年
考ハと云後と云

一八 洋崎神社

旧号象深大明神和尔雅出羽の名所の部不

博方の神といふは是なり吹浦大物忌神社
の旧記は着原といふは当社のその内の一社
なり古事記に

天孫降臨を記し能ふこととせん

幾代よぬ博方の神

と記さしは当社の事なり壬午博海寺の
古歌を集て板行ししは博方蟹よ海とと
書ししは誤なり天をあめと訓は是と名
いふ天工に産を記し是はといふ事なり是は
宇賀の神記なり安仏法系伊智の事

てよふれし事には宇賀能神為大物忌と
あり此神は傳記曰酒殿女神伊特
丹生和久産巢日神児豊宇賀能賣神
延丹洲素具ノ社子多ク神是なり又穀を生
しは神子して大物忌神社は曰神なり
神代は変子倉福意命孫廣瀬和加宇賀
賣神社号大忌神大物忌を累して後同事日屋冊
書し是は命と云ふ又此神は記曰

天照皇大神與止雲皇古神合明齋德
飛馬如天上後一處雙馬和久産巢日神子

是字万能賣 屋船福 生又穀而昔醴酒在沛
郷倉云くけしおの又穀を考ればあち神とたふ
天上は産一なる神なる一なる神なる一なる神
を勅詔して神久なるを幾代よあぬと天
上は産を考是始よ何傳んとの歌あべ一八
津神の尚社の地名なり其深の中よりして人
家も二三軒あり今ハ畧して神とりし和
示雅出羽の各所の中よ八十神とりしあり
按古にはしよ一して八神の祀もや又八十
神ハ八津神の轉讀もや又八十八神を八十

神とりしよや和に八十神とりしよ一なる神
よ示似たり社家言津氏尚社を古儀を

一八播宮

仁加保後崇教をくれ一社なる一八月十
又日多礼あり町中神樂を後を社家一人
有り 佐辰 例年正月吹浦の神祇神事のは
由利下向の者なり尚社ハ秘記一姓あり浮
世の化文も一して附言の事なり一志は史小
齟齬して伝用するに是に右二社の名なり
然り神社祇園社古に五社何れも社家有

古より仏教の室つふく心

一 蚌海寺

禪家なりいよ——(こまかきよ——こまかきよと皇
子山と号し梵字のカニニンをちまうとしり
ともいふを辛陰島と干海珠寺と改めり
古陰島よ蚌海珠寺とありきを辛陰徳
孝縁起をちて當るに奇蹟を未見す中
能因の孫掛石西行橋をといふあり沙の
まつる蚌は水よ映を象浮の橋は浪よ
埋めて花のこころ海士の弱みとよめれ

五つしこまかき寺の十首の歌をとあれた誓
りれハ略之を代芭蕉翁も

蚌方の雨や西施り合款の花

と吟きりつ人は石よ彫刻を去人皇宮
山蚌海寺と号まらハ上右 神功皇后之
韓征伐の附け而より海をまめ切(小皇
宮山と稱を示す号ハ干珠海珠の二顆と
稱を——なるとい(大伴旅人の説を——て伝
用まらに是ハ三韓征伐の附記は案より矣
玉(海をまめ切事日本紀并法書に載る如

孝を指りぬし但皇后記よ令徳玉集船
練玄甲とあればけ色よりし若阿の若ハ
身を出し一実玉一渡り凱陣の後皇后の武
徳を感し崩沛の後神矣を多し事とこの
よりを治世より一寺を建て皇后山と
ハ書りりよや皇后実玉一渡りを多し
角を渡りといふ神海玉の神武船を多し
よハ懐玉を多しして船武神社なりしと云
あれは佐多に是に如し建徳も多し
志の人なり但船武の若ハ船武の流飛此
時身を多しり雨をいふや

一芥田飯

仁嘉保の月より羽粟雨く要害記し曰
坐利芥田所裏よ古塚ありし上後由來
芥田伊豫古塚なりと云く一雲宗佐(造)
りり少面より別書て中上(丸)を記す
よ甲の伊豫古塚(由)の然存の事には
と阿りけ文よ考れば長中をけ人南
よ若佐を記すに元和申る上家深収を
りれりり時南塚も古上りりや

一 福荷大明神

小友白小友沃村より姓古く乙友村と稱して小石白工屋今小石白子吉といふ一小石の精進也南朝より他海郡吹浦支那支那一支那南朝進の地なり大相忌神社ハ倉福意命よりして福荷は同神なり支那支那一支那南朝の地ハ倉福意を尊ぶ事福工友福工友外社家一人有熊谷南朝より南朝進の地ハ支那也

南朝進出羽一之宮支那大菩薩は伊利郡

小石郷乙友村事在為天下無復別与陸奥出羽支那精進事案を以状如件

正平十三年八月晦日從一位右大臣

源朝臣判

とあり尚書尚書の南朝南朝一一事ハ事子と
是生石山石山の下に從位正平元年ハ貞和二
丙戌丙戌ハ事也

一 子吉館

十二卷の月なり子吉白より一記子吉
源朝と其外ハ不見也

一 白山神社

子吉白土屋村より阿り社嘉一人有 佐々木氏

一 内城館 井城元虫

内城白土考屋敷村より阿りは東野村の近所
よりして川耳より阿り築城なり今磐石倉館元
いふ蹟太平記二十九之巻奥州關の条下に
尚武士の内より井城と阿りい尚館よりして
有らむとを姓名詳かすは義光物語山形一
加勢の条下に内城孫田部六十五人とあり
一記亦城元虫三平石寛永十二亥年死去

よりるとあり

一 浮保館

十二巻の目なり西目村浮保村より館記あり
酒井左衛門尉殿嘉士浮保孫九郎といふ人
尚館より子孫よりして正徳年中其子尚忠
といひ一人その他より元徳赤の子孫より對
面より孫平右後年又下向一雲宗佐一の
文中に赤孫左孫右左左左左左左左左左
とあり赤孫ハ赤左の先より案出たり
孫左次ハ浮保の館よりして孫九郎
後年孫左
といふ

孫古史孫平古孫八先祖よりの通字もや
三上家改易以後酒井徳中守成へ孫古史
其後本家へ巨抱し孔系等被家になり
と云一記は深保孫古史成と書て服は五年
成とも稱せとあり尚社は二里は方の深あり
成は深保といふ

一石沢館

十二堂の内なり石沢白の内登村より成ふ
館村と云一を後年に登の字に書改む
よや館之の姓名没落の年記未詳なりす

酒井家の臣石沢氏其子孫と云

一石沢大明神

石沢村より石沢成徳寺なり一社家一
人あり精儀

一古神

同村より社家一人あり古場

一澁沢館

十二堂の内なり澁沢村より澁沢白の内
一雲宗依一の文中に澁沢成といふは館
より古史と云れ一人を畧して書くと見

より新光村に加勢此条下に流溪刑部百十
人とあり同書家中新新舟に流溪之庫を
万石とあり或記十二畝を奉り中にも流
溪之庫とあり又一記より一畝名岩谷岩
波芝長八年流溪居位後裔とあり尚
院より元和流溪の次矢崎学民流と有
海山の遊學を論志

一山王神社

一古一流溪の結末より一て同村より被家没
為以後多新し此条の附を一社家一人あり

小濱氏土隔

一矢崎氏

尚館之生駒後先祖を流守成ハ濶州を流
一あり一人と志流溪ノ家老あり御在出ノ非
及より一て民を若一めより一にあり濶州を石
より一尚館をより一と志

次白村大福村熊鷹流村神山村松内場村
以上玉系白なり

天神村中村所村下等子村松中屋村
以上等子白なり

地なり伊勢居地村ハ程中よりして至家老
当而も位也

至家老ハ仙北の方より中居飛田の領を以
て産色徳なり大正白秋田領意屋の色なり
川田白ハ筆子のおよそ形屋ハの色徳也

一 天徳館

或人十二黨の月大井又弁といふ人吾佐
より一記なりといふとも吾佐を志した天
正年中ハ小女川成領より山本宗佐の家
記ハ小女川濃急流成りて支吟

見一喜に山も聲もやあまの花

又天海文法集

神の海を以て重恒法くも震り神

とありあの白ハ当而ハ山桑よりして吾佐く
花の葉も余而より運をいハる也
天海文法集ハ有て小女川成領成りけ
人宗佐のつぎよりして昨の下向を形れ
由ハ中居の城の条下に記を或人の評は純
海郡親善寺の館より小女川成（十巻）
と云状ありそ文云

度自大浦出上落付与川菊之由事と
して賀長之婿男より工田を以て是等取
長揚記數川州之由値又之案はお流し前
より其人神に在り故に中仁由向心
此の由人教後(去)入(去)急よりして二二日
中に逆流之館く有り此巡見り故に
味他之由情建(去)此言陳之案各氏見以下
はお噂(去)此働之工よ一ヶ所兼二ヶ所兼
此竹落(去)是(去)きりと各々中(去)此松子自
是(去)是(去)入(去)方(去)初(去)を(去)命(去)は(去)く(去)は(去)云

六月二日

喜次氏秀判

小妙川伝

田川郡の内は楢引江といふ所あり古人傳
楢引郡といひ一州あり賀長郡長九子孫と
いひ一人未考誠後流と云上流之(去)吾合乃
又前を考れば天正十三年丙の夏巻一(去)る
由状如べし小妙川氏没落の年記未考元
和九年并誠在道三子石なり矣此(去)指任と
一記より寛永十七辰年生駒(去)守(去)傳(去)
下され(去)半(去)ハ(去)前(去)に(去)記(去)を(去)撰(去)き(去)る(去)賀(去)長(去)ハ

丹羽加賀守長重を略して賀長と書し

よや

一記は土井五郎といひ一人の先祖は佐
川の国を領しし人よて寛永二乙亥三
月函館をありし下志をこれしと云

一下村館

十二意の国なり其事記今詳なるは下村
白を領ししよや一記は下村小笠原と
あり小笠原ハ氏なり假名にありん物違ふ
為ぬ一但内城は語訪大明神の事は記

傳り小笠原能定と云一人函館を拓り

よや

一金峯山

下村の室田村よりあり為料として代々領
より田地子別此等附別當を極樂寺と
いふ羽鳥流の経験なり平麻郡保呂波の
根口よりして金峯山といふ中王を出し當館
内より保呂波系傳の及ハ極樂寺を看坊
とせ

一鬼峯山

学既荒廃あり学既を福王寺といふ多海
山の逆掌方よりして学既行の及場館をの
祈願所なり。神験及よ奇鬼後鬼といふ事
あり。是等山といふ是よりいふ。

一月山大権現

大沃の板山田村の東にあり。神験一人也。

一八幡宮

同々大羽沢村よりあり。卯に壬辰新雨玉降
まの前にて村に八幡宮あり。何れも社家一
人なり。

一星明神

おのの月中山村よりあり。社家一人あり。六月
十九日忌礼也。

下那由は星明神多あり。是等社之元
秘系裂。根裂。経練之社なり。

一八塔山観音

川内は当館よりハ川内といひ田代村よりあり。言
山なり。神験一人也。

一黒沢館

在る今詳なり。是当館下村の月より黒沢

村有りけし所は住をくれし或士もや姓名未
考へた家依の家記を見むにけさの武士に
依居し依るといふまてけ事一に振れ

末幾世松一あひ生の後り川屋

といふ有り居居後といひいハけ人なとふ
や追尋ぬ一一人思汲ハ本居領云

一 地蔵堂

仁加保の月五程居領分伊勢居地村よ五
領之の新領所なり別當を室積山莊仙寺

一 地蔵堂といふ事云

一 平澤領

平沢村石浜村上小浜村下小浜村室沢村
中居領 入交 地内村杉山村 狹村石田村之庄村
更入 野村以上惣言之石当附仁加保西五居
領地よして平沢村よ領所あり之石の月
支別月記在へ千石分地 上地五一五村は内記居領
二百石ありと云
仁加保の半要交前後に領地

一 平澤

尚前ハいよ一(中利居居領をくれし所と
延嘉式二十八に書出羽居居領をくれし

在佐十三也 工文略在佐ハ飽海郡ノあり
工古ハ在佐飽海列而ト云ヘリ 碓方也

利各十二也 白谷七也 飽海秋田各十也 同

傳る此条下に坐利六也とあり 是亦の文

部を推さるに古ハ坐利と碓方とハ列地

よりして今のところ坐利郡の列ハ碓方と云

而五一といは見くもけ以てハ南郡ハ秋田郡

の列と見ヘリ

三代実録仁和元年出羽國秋田城中及飽

海郡とあり及の字飽海ハ秋田郡の隣郡と

云々味有よや一説ハ飽海城を坐利城の

館にありといふ人あれは延喜式の文部を

考れば地利お遠きり坐利ハ古ハ秋田ハの

邊なる事歎る傳るの定都を志すに

義經記二と巻切見の若狭強盜の条下に

其年ハ飢饉なりりれハ出羽出アキコ也

せんとの大羽ハ坐利左界と云々のと云々

切見の若狭強盜ハ藤那王及合資吉氏同反

して奥州ハりりあふ年して承安二年三月

の事なり又承安十と巻ハ放恭衛兵統

大川次郎兼任叛逆を企て我飽并朝日冠

昔ながらの偽号して當面を徘徊せしは是任
送使若由利中八惟平の許と有り右平記
評判十又し是も其是勢忌坂中事系下傳曰
しは由利とあり同小湊水車の傳曰しは出
しり建武元年の事しして其是の西日源中
納言源家伯の先傳書日少將源佐の先傳
由利伯八右宗七る金騎お然りにりし是て
戦ひたりは右宗りけ散されぬ二陣よつと
しは子福七郎ある金騎入替りて戦ひると
云く尊氏よ屬ししは桃井七郎と書野上
ありて合戦此系下に是しり書日少將の
源家伯の合戦なり又續太平記二十九其
是關の系下に云く上源理方其政家軍勢を
從進ししは由利と有り又羽源記十し是
若地系所合戦并書津武其討死の系下に
しは由利十郎と云く同十しは是も由利十郎
右衛門と有り

一八 惟平

平氏より代り代り飲之る家の社なり社家
二人社僧一負其云宗極験一人其正月元日

より七日と社家系範記と安全の祈禱と八
月十五日多礼氏子へ社稷獅子隊を渡すと

一院内録 又根柢丸

十二黨の因なり古代仁が保徳代へ居住を
られし館社とをいふ城なり後太平記奥州
關の条下に仁高保とありは是なりとを没
落の年記詳ならずを義光相徳正の法名
山形加勢此条下に仁高保を居る八十五人
とあり是ハ義長又年の事なり付録を拠と
すバ付録と尚館より居住をいれりや

又山平宗依が家の記よ

榜夕世の形や見たり花の色

といふる有りあ書に仁高保古旧記を見て
と有り宗依の家記を書こふ義長十五六
年の事なり二説を合て考へに仁高保の
没落ハ義長の中記なり一云上成日野
備中を散但馬五人を以て尚那を捨地一
あり一性面より仁高保家の領なり一元和
九年以後の事ハ汝城の条下に記を

一七三 山文権現

鹿角村より有り古仁嘉保後より遊きしれり
社より社傳詳なきに享保年中の書有る
七言山列尚極樂寺とあり言云社殿を人
有旧言古ハ元徳も五りりや元徳屋敷と
いふ有り二月十五日多礼あり平河村の社
家神子亦系仕古家十一面觀音を布地伝と
是源氏為徳相流をいふに七言山といふ
比叡山をいふ伊吹山 吳徳山 毛岩山 山城山 神
尊寺 檜付山 金峯山 葛城山 古知山なりけ七
言山を勅徳一より西より海山の円東の

方を七言山といふ神仏の徳をいふ所より
阿の江流れハ海山の七言を勅徳志より
といへんも及理おあしに從進て考ふ

一

一 飛田記

松ヶ沢村 神ヶ沢村 萱川村 新川村 石根村
大浦村 平昌村 畑屋村 柴野村 中野目村
中館村 赤田村 半古村 志濃村 岩屋所村
浜沢村 桑坂村 大谷村 六呂田村 山田村
林蔵村 上志川村

以上内城色なり

上蛇田村・善法村・中長村・高尾村・次山村
長坂村・平徳村・岩目法村・羽廣村・大勝村
小栗山村・中田代村・新田村・首尾村・乃位村
松布村・加賀法村・大藏法村・福田村
法村・松川村・鉢川村・川口村・泉田村・下蛇
内村

以上川内色なり

新波村・常村・中候村・神ヶ法村・萱ヶ法村
破田村・向中村・江平田村・池候村・富田村

水之目村・江乃村・下黒川村

以上大正寺色なり

吉平村・二古村・内及川村・猪子村・羽川村
長濱村・桂根村・八田村・新田村・下黒濱村
荻新法村・若中村・淡尾村

以上下下淡色なり村数七十以上村惣二
万石

一言城 言備丸

飛田氏今此城の工より古く（高尾津後尚
城より高尾をくわへといふ説あり件に記す又

一説より積是をある高城を筑一後年又
平定三崎の城を築しこれ一たし云々の城
といふ平場の城の吳名とを又宗作の郡記よ
史利下向し附吟一とあるなり
あまの池もあひ三流り川柳

といふ有り詞書に館長門を筑りてと
有りは人部より見を一あまの池を考れば
は人の館ハ川の邊りといふ一なり
あまの池は
平定三崎の城を
築きしと云ふと口姓なる一高城ハ山ありて川あり一
考ふ一平定三崎三州の城を山石城

忠江平定 貞隆 高城を築きしれ高城の
下は平館を築高伊豫守後より又古人
の記より元和九年岩城但守後高城を
持領せしれ一たあり程進て君ぬ一
武隆其の長又年より岩城貞隆以後領之
とあり

一八 檜宮

川内を松ヶ崎村より代々の城を築く
社あり社領三十石 祖安本因氏高城
の社領あり 信飛井山
八檜宮といふ又天満寺と云ふを稱を社

家より河法を巧む人なきハ歎く後半云

一保呂波山

羽廣村より有り仙山保呂波山の銀口有り
社銀三十石社家一人あり権太夫半王干是
教を由きて金峯山と有り保呂波ハ金峯と
同辨り妻御ハ仙山の下に居る同村小寺
知別神社五信下居堂と稱す

一毫宕大権現

城下にあり社銀十石別當一寺有 高云宗

一蕨王権現

川内色菖呂村よりあり社銀十石祇驗一人
あり牛王を出し金峯山と有り信保呂波山
一代の本云といふ

一八幡宮

日色意沃村よりあり社銀二十石別當一寺
高云宗

一羽黒山大権現

大正寺色菖呂村よりあり往古よりの勅法と
云傳り、牛王古板の妻より承保元年出羽
神社とあり子細田川郡羽黒権現の下に祀

予羽鳥ハ伊庭波神社なりとしふ一の概ニ
保元ハ七十二代 白河院の神宇なり回帝
永保元辛酉年と祚殿廣大女一に百二代
祚光院の神宇心長元年より保元三年
後花園院文安元年に中殿造立と云傳り
社家一人あり 伊庭波 南村の向ハ仙北下也
一八川邊郡の境なり

一 神嶽山大権現

中濱色揚子村子あり書卷元年勅傳とを
社家一人あり源氏物語細流を考るに神嶽

山ハ金峯山をいふと見へり仙北保呂波
ハけ色の大山子して山口之方あり仙北
八沢本村を表はと一南郡川内色羽鳥村を
表はと一南郡美濃領下村ハ室岡村を表は
と表之方あり半玉を由表に金峯山と書
是を以て考れば保呂波ハ金峯山と同解
なり事昭白なりとしふ一六郡の大山は
て武内神社よりにより西くに勅傳して
神嶽山大権現としふや城下もも神嶽山
大権現あり古社之勅傳の年記未詳なり

社家一人有佐くある沙嶽三所の内務手村を
之初と云傳へり

一 岩岩館

十二巻の内なり内城五岩屋所は本楯と云
あり一記は岩岩右之清孫よた之傳といふ
三子石の飲之よして元和八壬戌年深層
とあり本楯といふ所方一對しよ名
よや

一 羽根川館

一記は十二巻の内とま又一記は羽根川

孫市とあり節は雨見が下溪五羽根
川村ありは雨を飲しよ人よ

一 訪大明神

内城五岩屋林蔭村はあり古社といふと小
徳の年記詳なり一説は小笠原能光と
いふ人の氏神なりと云傳へり能光と
いふ人未考節に白山本字仲山大明神龍
山神といふありは社社家一人よて書
傳也

一 神田山八樓宮

下溪五下黒濃村はあり八樓古寺及送院

代の時勅徳一のみ社と云。社家一人有志屋

一日吉社

内城色沼浜村に有勅徳の年記詳ならず。社家一人有り。社家氏

一白山大明社

大西色沼^{北目}村に有勅徳の年記詳ならず。

一社家一人有佐々木氏。社家氏下。社家一人有佐々木氏。社家氏

下島川村に一社あり。社名詳ならず。社家一人あり。

一室光山大権現

下濱色沼村にあり。社名詳ならず。社家一人あり。

一二年田村將軍の建立と云。傳へり。七月十日

七日多礼有り。古俗親善といふ。本地仏と習

合し。社家一人あり。社家氏

社子神明あり。

一室龍権現

下濱色沼及川村にあり。社名詳ならず。社

家一人あり。

一月山神社

一 大正寺色苗田村の山林の内は飽海郡
月山神社を田村町軍東夷征伐の時勅
しめると云傳へり

一 海郡山薬王寺

高玄宗なり古伝百名石岩塔付なり
所新形
所なり此塔掘取を龍門寺といふ
なり

一 河色郡 村名言ふ未考

小郡なり秋田郡を裂別し
等には尚郡の事詳なり
延喜式廿二十

二の毫出羽国上管十一郡の内は河色と五
平麻郡諸のより流れ出る川あり郡の内を
流れて水の方秋田領へ流入郡内川の支
端は岳を接へる地なり
なり川筋尚郡をさして秋田川といふ
川上の苗なり川下の秋田なり
陽成天皇元紫二年夷賊討伐の時小官
をを下しぬる事下に此秋田川苗拒賊於
川水とあり川苗ハ川色川ハ秋田なり河
色も秋田後領なり

山形県立図書館



1-0324413-1

